

逗子の景観まちづくり

瓦版 第二十七号

平成二十六年五月十五日

編集 逗子市環境都市部まちづくり課

協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会

募集 逗子の景観スケッチや六百字以内の景観に関するコラム等を募集しています。

二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.kanagawa.jp

「桜」

桜が満開となり四月は新社会人新入学と新しい切り替えの月である。それを恰も祝うが如くに春爛漫の時である。



「山あり、川あり、満開の桜あり。」

絵 大久保 礼子 (鉛筆画サークル)

逗子には「桜」とつく呼び名が多い。桜山何丁目と言うように葉桜団地、公園もある。又久木ハイルンドの桜並木があり、いずれも見忘えのある桜である。又、六代御前の桜も美しい。しかし私は川沿いに垂れている桜、その川には鳥が遊泳する風景、散り落ちる頃は「花筏」と言えよう様は絶景である。

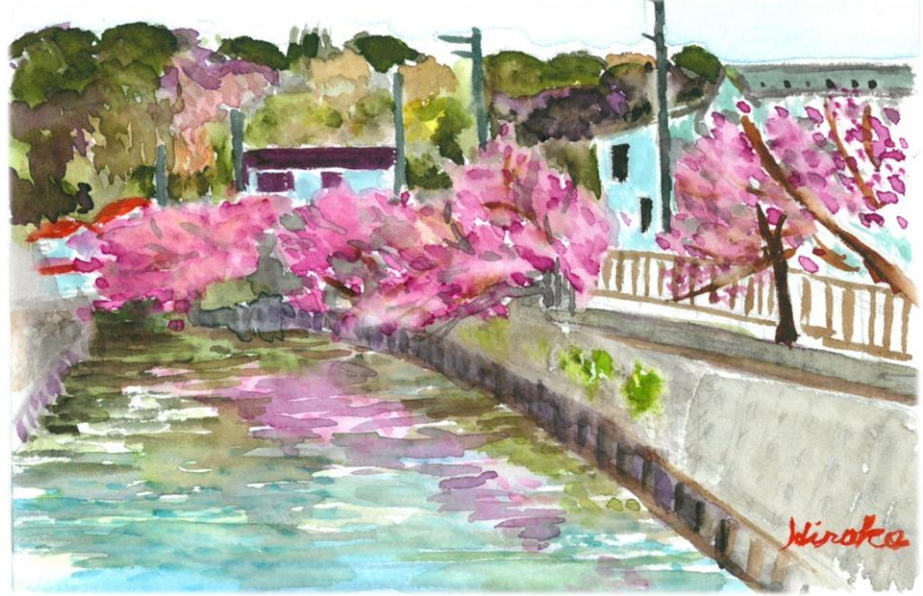
古代の和歌には梅が主流であったが現代は桜である。寒い頃は家に引き籠りがちではあるが、桜が満開となると心は弾みあちこちとお花見をしたくなる。心は弾むが一方年々歳々年令を重ねると侘しきも増して来るものだ。来年も又この美しい桜を見る事が出来るであろうかと、健康でありたいと願うものである。

時々電車で遠出をする時など帰り逗子駅に到着するとほっとする。空気の爽やかさ海と山に囲まれ本当に恵まれた土地である。従って住みよい所だから老人の人口も多いのかも知れない(そう言う私もだが・・・)。

平和で心豊かなこの土地をこれからもこよなく愛し続けていきたいものだ。

文 小林 治子

(鉛筆画サークル)



「春爛漫。川面に映る桜また良し。」

絵 寺島 弘子 (鉛筆画サークル)

昔話「カッパ松」と山の根の小字松本

及川 洋一

『昔々、山の根村と池子村の境に馬冷川（おんましがわ）というきれいな川が流れていました。その川には化けるのが得意なイタズラ好きのカッパが住んでいました。

ある日、村人が馬に水を飲ませる為川にやってくると、カッパはアブに化けて、馬の鼻や耳に入ってくすぐり、馬を暴れさせて、村人を困らせました。イタズラ遊びに疲れたアブのカッパは、ついウトウトと馬の尻尾につかまって眠ってしまいました。それを見た村人はそっと近づき捕まえました。化けの皮の剥れたカッパは、縄でグルグル巻きにされ、川沿いの岡の一本松の太い枝に吊るされてしまいました。カッパは「下ろせ、下ろせ」と泣き叫びましたが、後の祭り。三日目の朝、カッパはすっかり元気をなくしてしまいました。村人「もう悪いことはしないな？」カッパ「もう二度としません。ご免なさい。」村人「よし。許してやる。この松が見えなくなる所まで行ってしまえ。」

カッパの目から紫の涙が溢れ、二度と姿を現わすことはなかったということです。』

以上は、逗子の地域に伝わる昔話の一つ「カッパ松」の粗筋である。

昔話の筋書は勿論作り話であるが、その根底には地域ならではの自然の風土・地形や生活（くらし）などが横たわっている。そこが魅力である。

馬冷川（おんましがわ）というのは、現在の池子川の下流、田越川本流と分かれて体育館アリーナ裏を通るあたりの川筋を、そう呼んでいたのだそうだ。川沿いに小山があり、その頂上には、姿のいい一本の松の大木があり、遠く四方からよく見えたという。逗子湾沖を通る漁船は、この一本松を目印に航行したのだそうだ。この一本松は今はないが、実際にあったと言われている。場所は、山の根3丁目、JR横須賀線と京浜急行が交差する所の少々北より、池子接收地に通ずるJR引込線のトンネル（注1）の真上あたりと想定されている。



この一本松のある地域は小字名で松本という地区である。一本松があったから、昔の人は自然にこの地域を松本と呼ぶようになったのだろうか？

小字名松本は、現在でも、色々な所に顔を出す。①松本谷戸公園②山の根松本公園③市道松本沼間線=体育館アリーナ前 JR横須賀線沿いの道路④「松本支」の文字の入ったNTT管轄の電柱多数あり。（注2）

（注1） このトンネルは、昭和16年頃旧海軍が池子弾薬庫に通じる鉄道建設の為に掘ったものである。

（注2） 逗子市内には数多くの電柱が立っている。そこに縦長のプレートが上下に2枚ついている。上がNTT管轄、下が東京電力管轄の標識で、それぞれに、名前（ほとんど地名）が記してある。建設した明治以来の地名を受け継いでいるものも多く、調べてみると面白いと思う

<参考文献>○「逗子市内の地名調査報告書」 逗子市教育委員会 発行

○「かっぱまつ」 逗子市教育研究会調査部 発行

○「逗子道の辺百史話」63 河童松の伝説 三浦澄子著 逗子道の辺史話編集室

瓦版の編集担当は 逗子市環境都市部まちづくり課♪

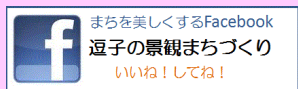
電話：046-873-1111 FAX：046-873-4520

Mail：machi@city.zushi.kanagawa.jp

逗子の景観まちづくり

検索

クリック！



瓦版に掲載する
逗子の景観コラム、
イラスト募集中！！

☆瓦版のバックナンバーは逗子市庁舎一階、まちづくり課窓口、市民交流センターに配架しています。他のナンバーも是非ご覧ください。

